

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年5月10日

事業所名 サンティパープ 南吹田教室

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標や工夫している点について
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数に対し、一人当たり3㎡以上の訓練室があり、勉強と遊びとSTの空間を分けている。
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数に対し、適切な人員配置を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		身体障がいの子供がいないのでバリアフリーにする必要はないと思う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		目標を立てるにあたり、話し合い、また経過や振り返りについても都度話し合っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様の意向を職員全員に伝え、業務改善や活動内容につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価の結果は、会報とホームページのどちらでも公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部評価は行っていない。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修は毎月1回行っている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		子供と保護者の方と話し、ニーズに沿って支援計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを用いて状況を把握している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		保育士、指導員が立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		プログラムは日々変えて固定しないように工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は時間が短いので、休日や長期休暇に時間のかかる課題や外へ行く体験等をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動はST訓練や学習支援の内容が多く、集団活動においてルールに沿った遊びなどを用いてSST要素を含んだ計画を立案している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日利用する子供が違うので、支援内容の内容について考えている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		それぞれの職員が困った事、気づいた事を話し、それについて考えている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		何をしたか、どのような声掛けをしたか、出来るようになった事等を連絡ノートに書いている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングを行い、到達度を確認した上で次の支援計画を立てている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		発達支援・家族支援・地域支援を組み合わせさせて支援を行っている。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		こちらの送迎時間を学校に伝える年度初めには、運転手の写真付きのお手紙をお渡し、管理者の携帯番号も伝えている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保育園、こども園を見に行かせて頂いたり、情報をお伝えしたりしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	障害福祉サービス事業所等へ移行する利用者様がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		吹田市内の研修は少ないので、他市の研修を受け、他職員へフィードバックしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナの影響でそのような機会を設けていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	今年はコロナで参加していない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートでのやり取りだけでなく、電話での相談もいつでも対応させて頂き、職員にも共有している。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		今年はコロナでそのような機会を設けていないが、連絡ノート等のやり取りの中で、困りごとに対しアドバイスをしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に必ず分かりやすく説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡ノート、お電話、面談、いつでも相談に応じ必要であれば学校等とも連携を取る。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	このコロナの状況が落ち着いてからと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった場合は、その原因や背景、どのような状況であったか、その後の対応、今後無いように対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一回会報で子供達の様子、行事予定などを発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人ファイル等は事務所で厳重に保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		実際に見せる等の視覚や聴覚を用いて意思疎通をしたり、情報伝達している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナの状況が落ち着いてから考えたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	保護者には契約時に説明し、職員には常に見えるところに置いている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	不審者、火災、地震の避難訓練を年に3回行っている。どのように避難するのも保護者に伝えている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	年に1回は虐待に関しての研修を行っている。虐待は無いと言い切ることが出来る。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在、身体拘束を行うような利用者はいないので、計画にも記載していない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	医師の指示書は無いが、保護者からどの程度のアレルギーなのか聞いている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット事例集は作成し、共有し、ヒヤリとする事があれば書いている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。